

◎家畜伝染病の防疫対策にしっかりと取り組もう。
◎放牧や粗飼料生産の準備にしっかりと取り組もう。

<要約>

◇ 乳用牛 ～子牛及び育成牛の飼育管理～

子牛は、生後4時間以内に初乳を与え、清潔な環境で飼育する。生後3日程度で順調に哺乳ができるようになったらスターター（人工乳）を与え、ルーメン絨毛の発達を促す。スターターを十分に食べさせるには水分補給が重要であるが、ミルクと水の同時摂取は消化吸収の妨げとなるため、水はミルク給与後30分以上の間隔を空けて給与する。

◇ 肉用牛 ～放牧に向けた飼育管理～

放牧1か月前から、牛を運動場に出して外気や日光に当て、野外環境に馴れさせる。また、放牧環境の餌に適応させるため、放牧2週間前から青刈りの草を徐々に給与するほか、ワクチン接種や削蹄を済ませておく。

◇ 豚 ～衛生管理～

関係者以外の農場への立入りを禁止し、敷地内及び畜舎周辺を消石灰等で定期的に消毒するとともに、豚舎の出入口で手指、靴底等の消毒を徹底する。また、野生動物の侵入防止に努め、その排せつ物が飼料や飲水に混入しないようにする。異常豚を発見した場合は、直ちに家畜保健衛生所に通報する。

◇ 鶏 ～衛生管理～

関係者以外の農場への立入りを禁止し、鶏舎の出入口で手指、靴底等の消毒を徹底する。また、消石灰等による農場内の消毒を実施する。鶏舎の天井、床、壁及び入気口の点検、補修を徹底し、野生動物の侵入防止に努め、その排せつ物が飼料や飲水に混入しないようにする。異常鶏を発見した場合は、直ちに家畜保健衛生所に通報する。

◇ 草地・飼料作物 ～草地・飼料畑の準備～

- 1 採草地における早春施肥は、目標収量や主体となる草種に応じて調節し、消雪後速やかに実施する。
- 2 牧草地におけるムギダニの被害を防ぐため、早期発見と防除に努める。
- 3 飼料用とうもろこしは、作付体系を考慮して品種を選択し、堆肥や土壌改良資材を適切に利用して土づくりを行う。



| 報道機関用提出資料 | |
|------------|---------------------------------------|
| 担当課 担当者 | 農林水産部 畜産課 経営支援グループ グループマネージャー 木村 勉 |
| 電話番号 | 直通 017-734-9496 内線 4814 |
| 報道監 | 農林水産部 次長 蛭名 芳徳 (内線: 4966) |